

# **あま市男女共同参画に関する 市民意識調査結果報告書 (概要版)**

～令和2年調査～

# 目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| ●調査の概要                | 2  |
| 1 調査対象                | 2  |
| 2 調査期間                | 2  |
| 3 調査方法                | 2  |
| 4 回収状況                | 2  |
| ●調査結果の概要              | 3  |
| (1) あなたご自身のことについて     | 3  |
| (2) 男女の人権尊重について       | 4  |
| (3) 家庭生活について          | 6  |
| (4) 地域活動について          | 8  |
| (5) 女性活躍推進について        | 10 |
| (6) 子育て・子どもの教育について    | 18 |
| (7) 配偶者等からの暴力について     | 22 |
| (8) セクシュアル・ハラスメントについて | 26 |
| (9) 男女共同参画について        | 30 |

## ●調査の概要

- 1 調査対象：あま市在住の20歳以上を無作為抽出
- 2 調査期間：令和2年8月17日（月）から令和2年8月28日（金）
- 3 調査方法：郵送による配布・回収
- 4 回収状況

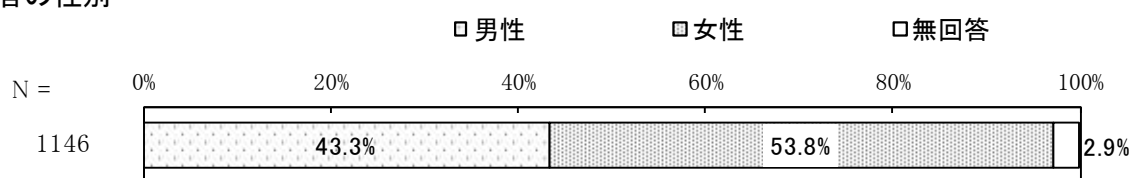
| 配 布 数   | 有効回答数   | 有効回答率 |
|---------|---------|-------|
| 3,000 通 | 1,146 通 | 38.2% |

## ●調査結果の概要

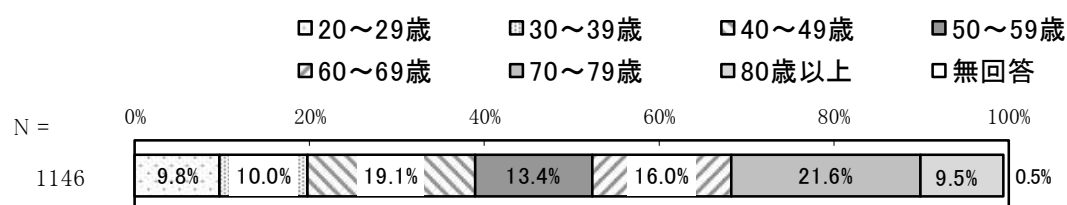
### (1) あなたご自身のことについて

- ・回答者の性別について、「男性」が43.3%、「女性」が53.8%と、女性の回答が多くなっています。
- ・回答者の年齢について、「70～79歳」が21.6%で最も多くなっており、また、「20～29歳」が9.8%で最も少なくなっています。20代、30代からの回答が他の年齢に比べて少なくなっています。
- ・回答者の婚姻状況について、「結婚している」が70.4%となっています。
- ・回答者の家族構成について、「親と子（二世世代世帯）」が43.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が24.1%、「親と子と孫（三世世代世帯）」が10.9%となっています。また、「単身世帯（1人）」が7.4%となっています。

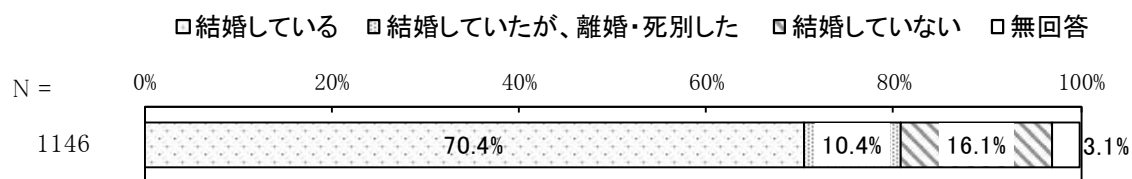
#### ●回答者の性別



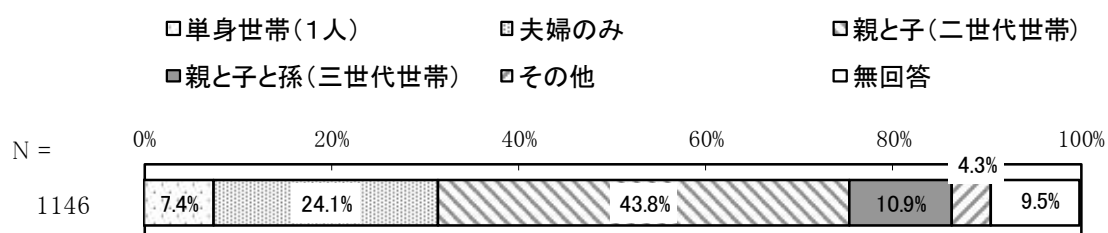
#### ●回答者の年齢



#### ●回答者の婚姻状況



#### ●回答者の家族構成



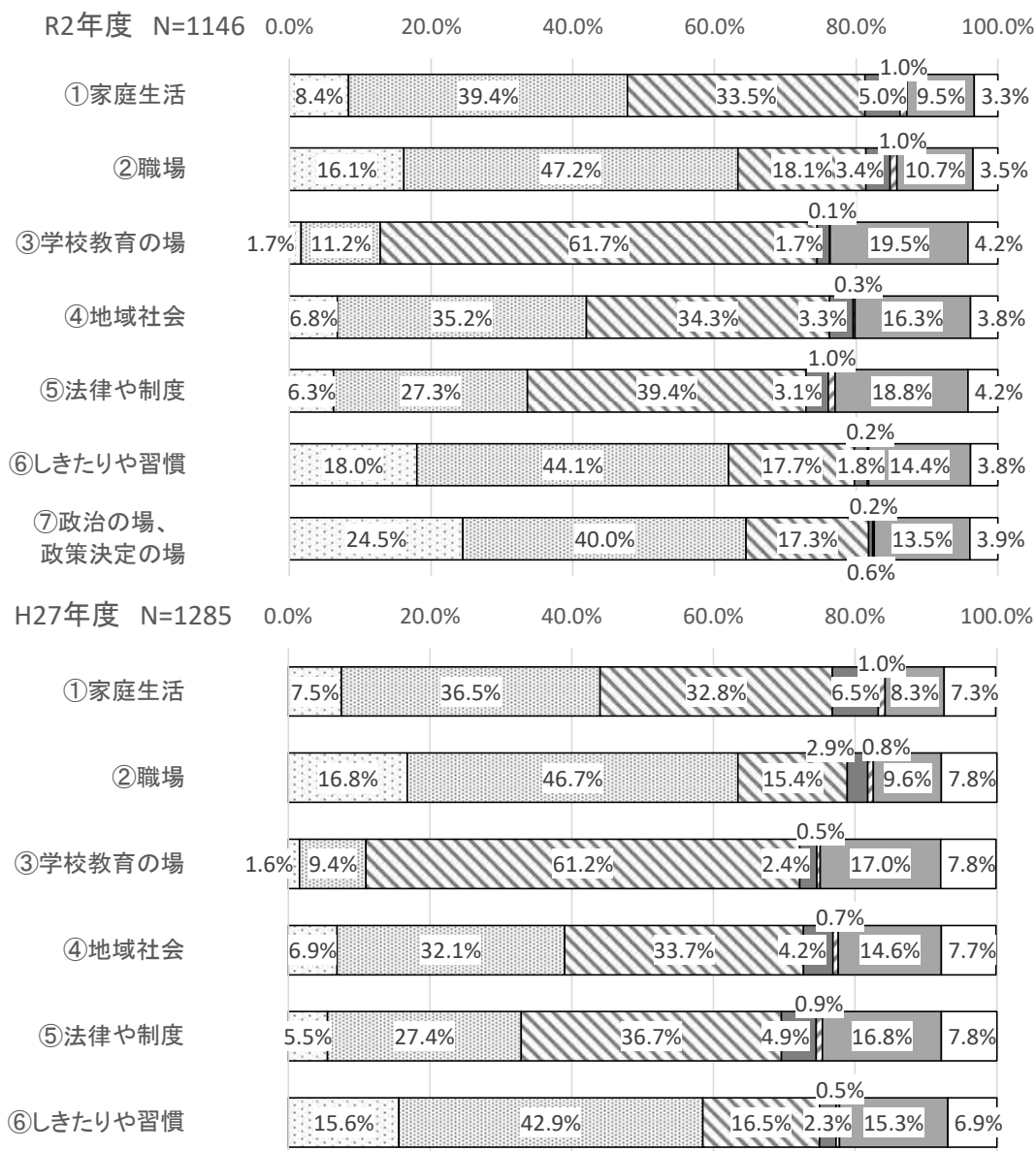
## (2) 男女の人権尊重について

### ① 男女の地位について

- ・男女の地位について、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が、②職場で63.3%、⑥しきたりや習慣で62.1%、⑦政治の場、政策決定の場で64.5%と高くなっています。
- ・「平等である」の割合が最も多くなっているのは、③学校教育の場（61.7%）となっています。
- ・「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた“女性優遇”の割合は、いずれも6%以下と少なくなっています。

☐ 男性の方が非常に優遇されている  
☐ 平等である  
☐ 女性の方が非常に優遇されている  
☐ 無回答

☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている  
☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている  
☐ わからない



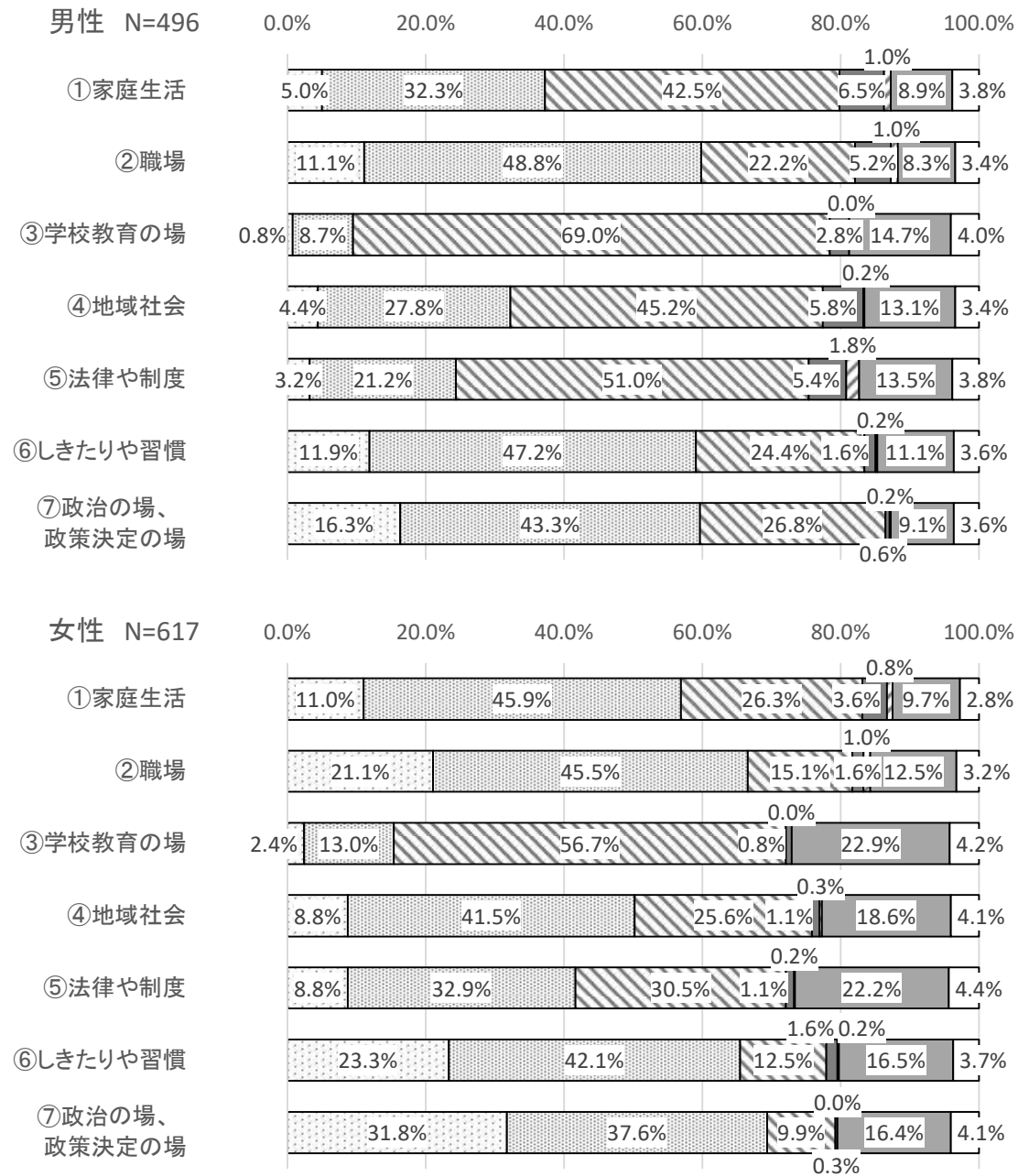
※H27 年度調査では⑦政治の場、政策決定の場についての設問はありません。

## 【男女別】

- ・男女別にみると、“男性優遇”の割合が最も高くなっているのは、男性では②職場、女性では⑦政治の場、政策決定の場となっています。
- ・一方、男女ともに③学校教育の場については「平等である」の割合が最も高くなっています。

☐ 男性の方が非常に優遇されている  
☐ 平等である  
☐ 女性の方が非常に優遇されている  
☐ 無回答

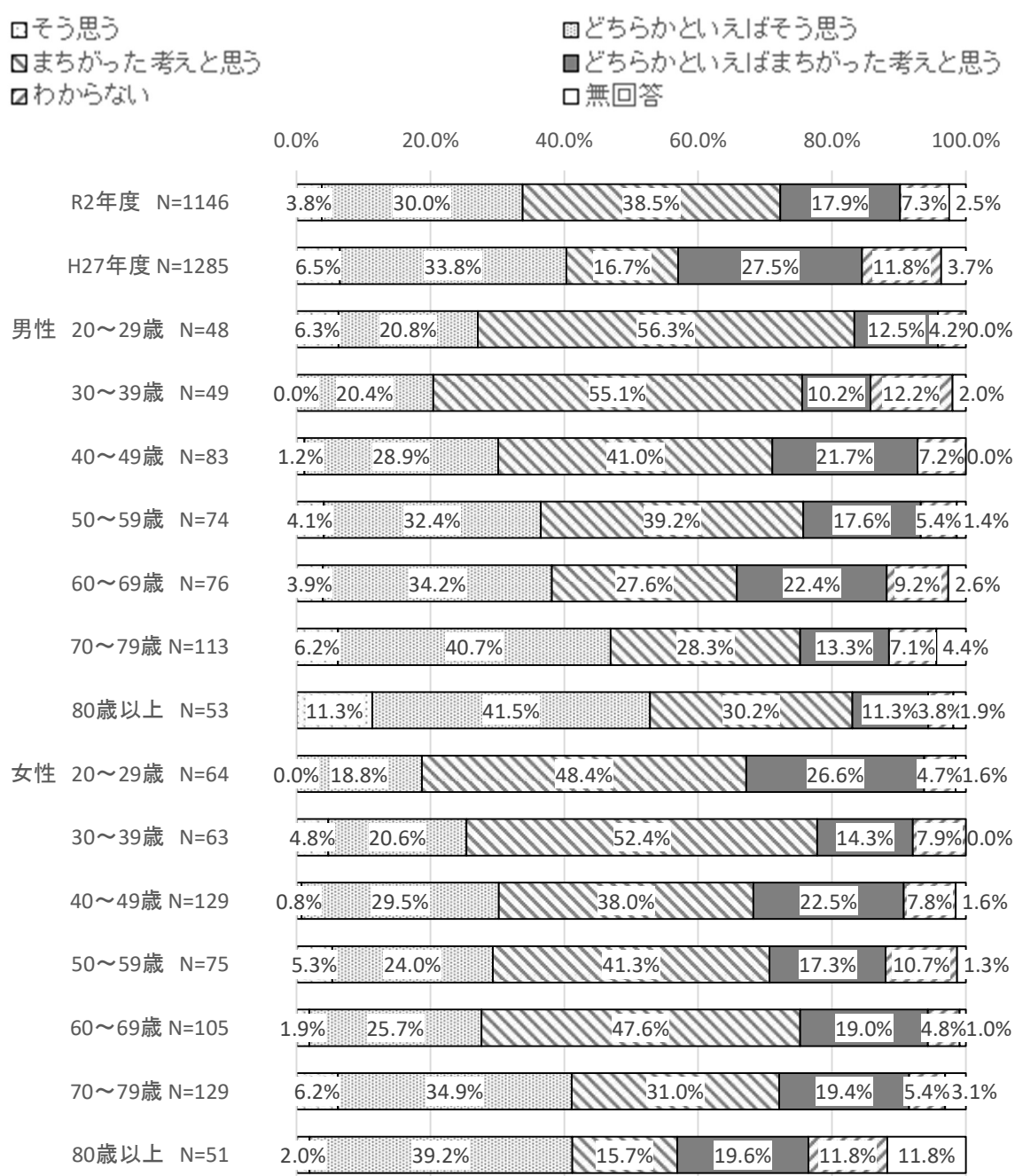
☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている  
☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている  
☐ わからない



### (3) 家庭生活について

#### ① 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が 33.8%となっています。「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 56.4%となっています。
- ・男女別年齢別にみると、男女ともに 70～79 歳及び 80 歳以上では“そう思う”の割合が高くなっています。また、20～29 歳については女性では“そう思う”の割合が 18.8%である一方、男性では 27.1%となっており、同じ年齢層でも男女別で意識の違いがあることが分かります。

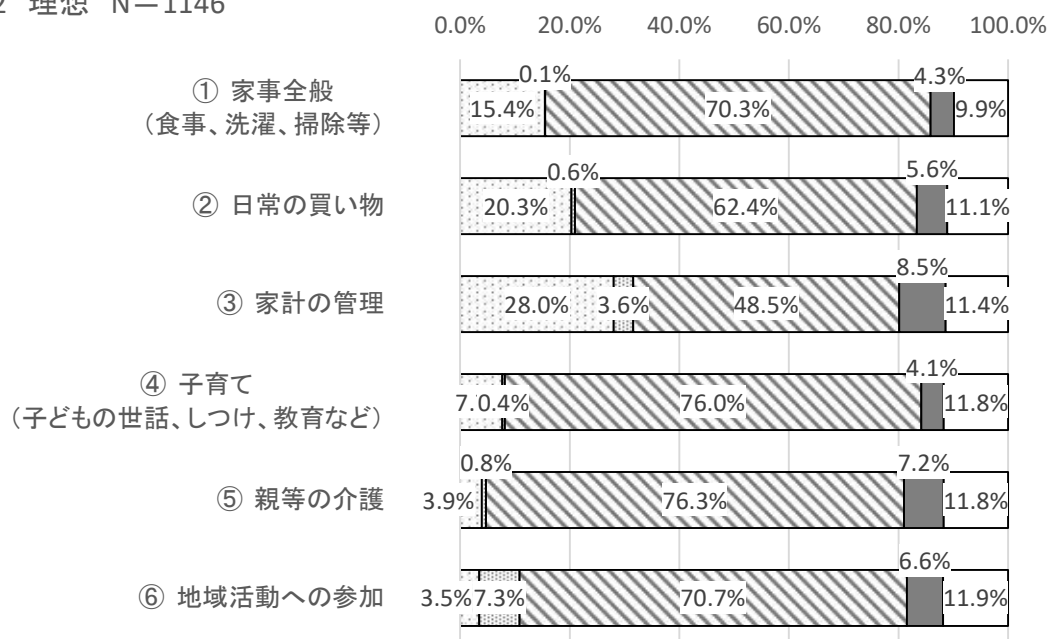


## ② 家庭における夫婦の役割分担について

- ・家庭における夫婦の役割分担について、理想としては「共同して分担するのがよい」がいずれの項目でも多くなっていますが、現状としては①家事全般、②日常の買物、③家計の管理については「主に妻が行う」が多くなっており、理想と現状に差があることが分かります。

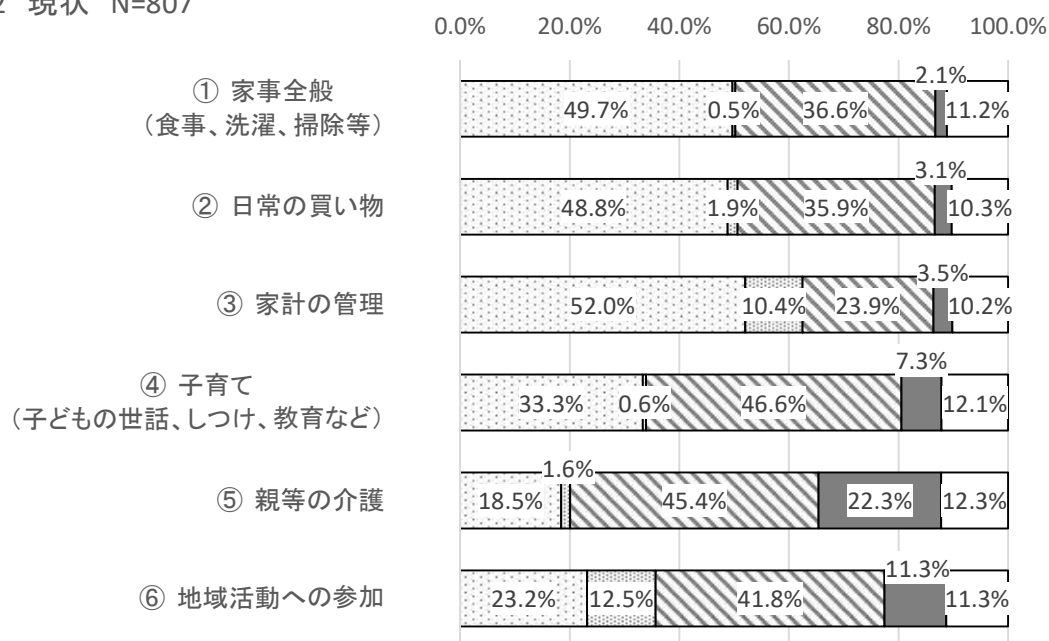
□主に妻が行うのがよい □主に夫が行うのがよい ■共同して分担するのがよい ■その他 □無回答

R2 理想 N=1146



□主に妻が行う □主に夫が行う ■共同して分担する ■その他 □無回答

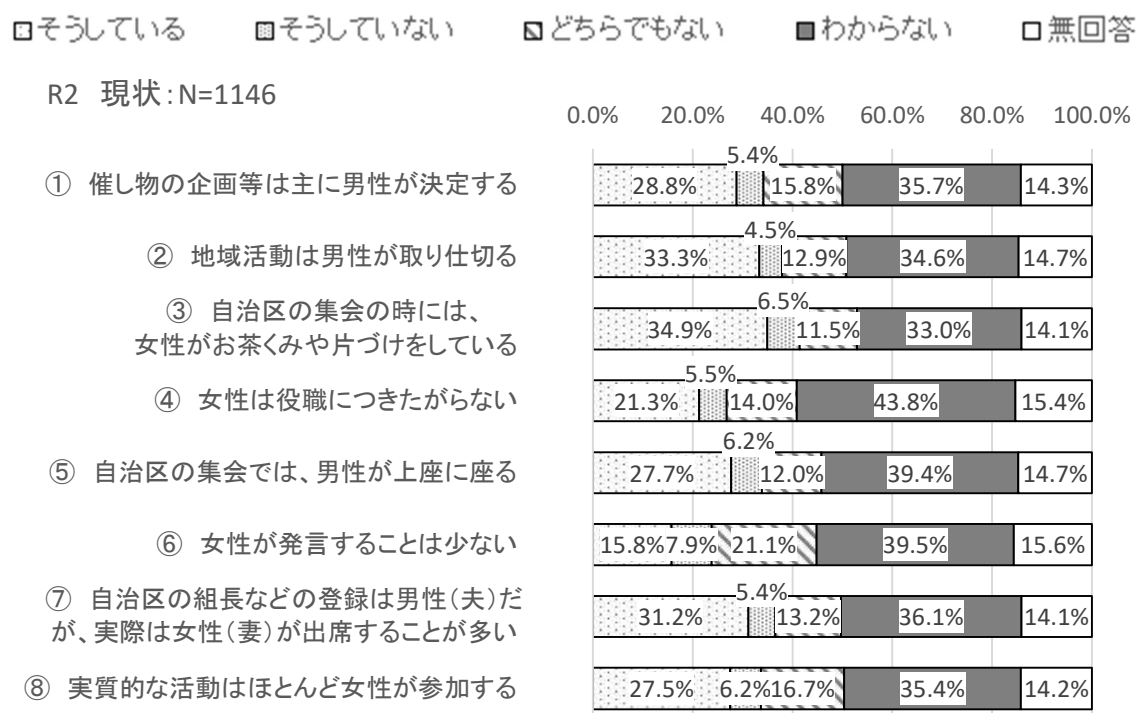
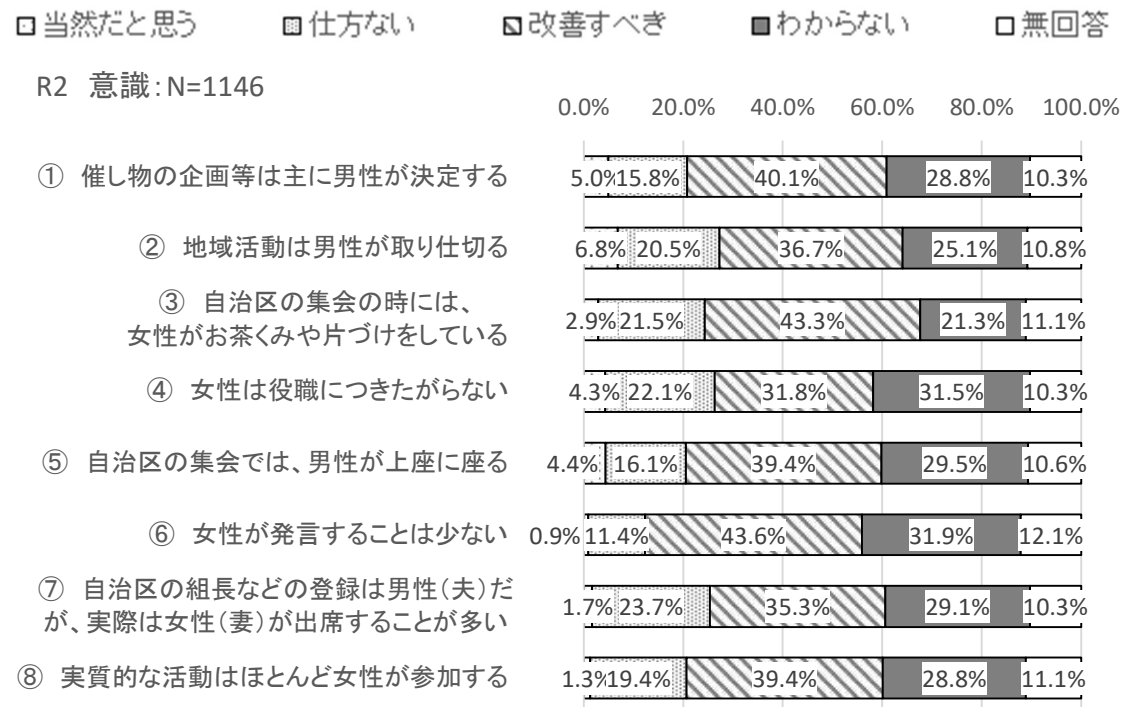
R2 現状 N=807



## （４）地域活動について

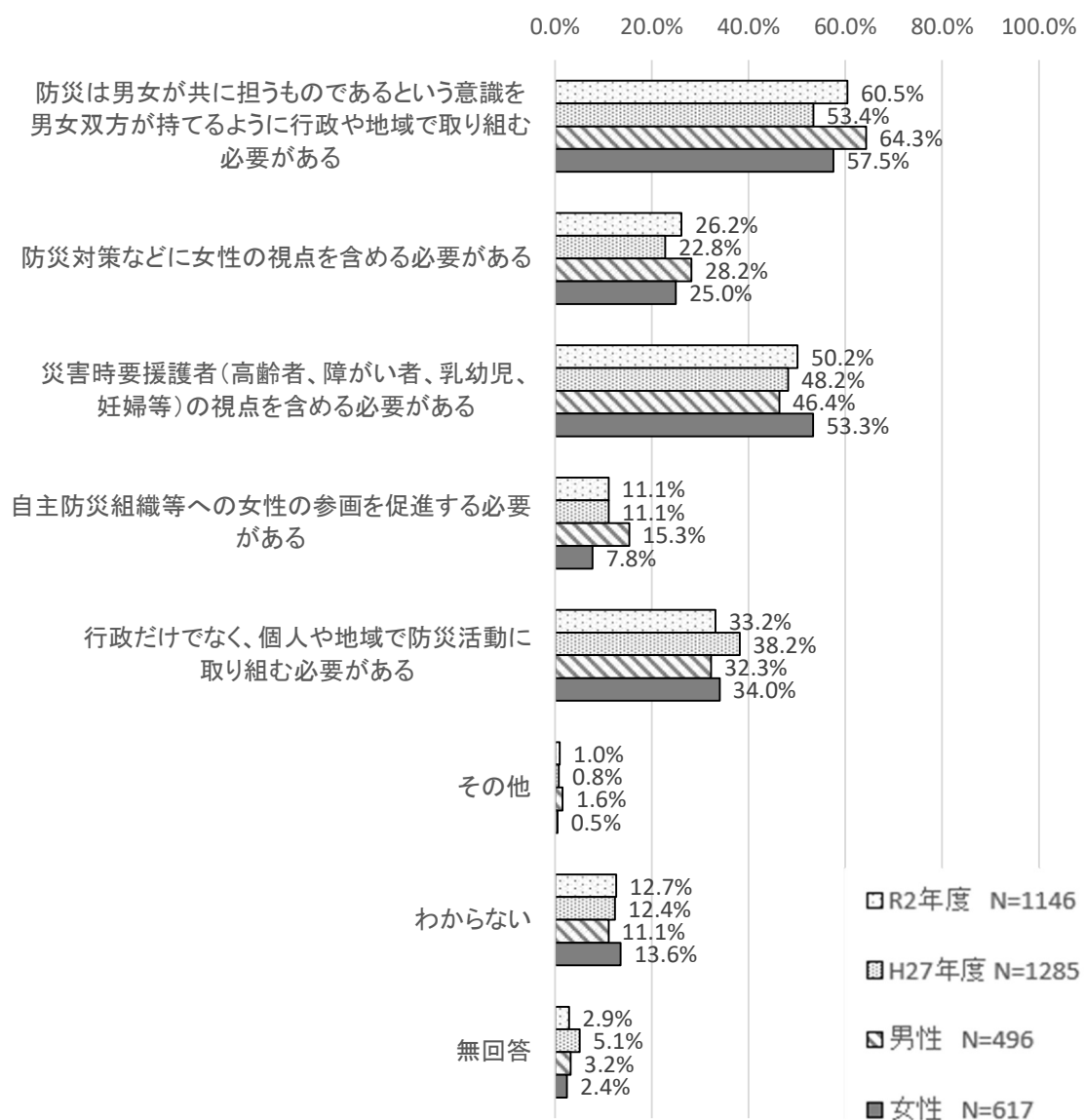
### ① 地域活動における男女の役割分担について

- ・地域活動における男女の役割分担について、意識としては全ての項目で「改善すべき」が最も高くなっていますが、現状としては⑥女性が発言することは少ないを除き、「そうしている」が最も高くなっており、意識と現状に差があることが分かります。



## ② 地域の防災（災害対策）活動推進の考えについて

- ・地域の防災（災害対策）活動推進の考えについて、「防災は男女が共に担うものである」という意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が60.5%と最も高く、次いで「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」の割合が50.2%、「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が33.2%となっています。
- ・男女別にみると、女性に比べ男性で「防災は男女が共に担うものである」という意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の割合が高くなっています。

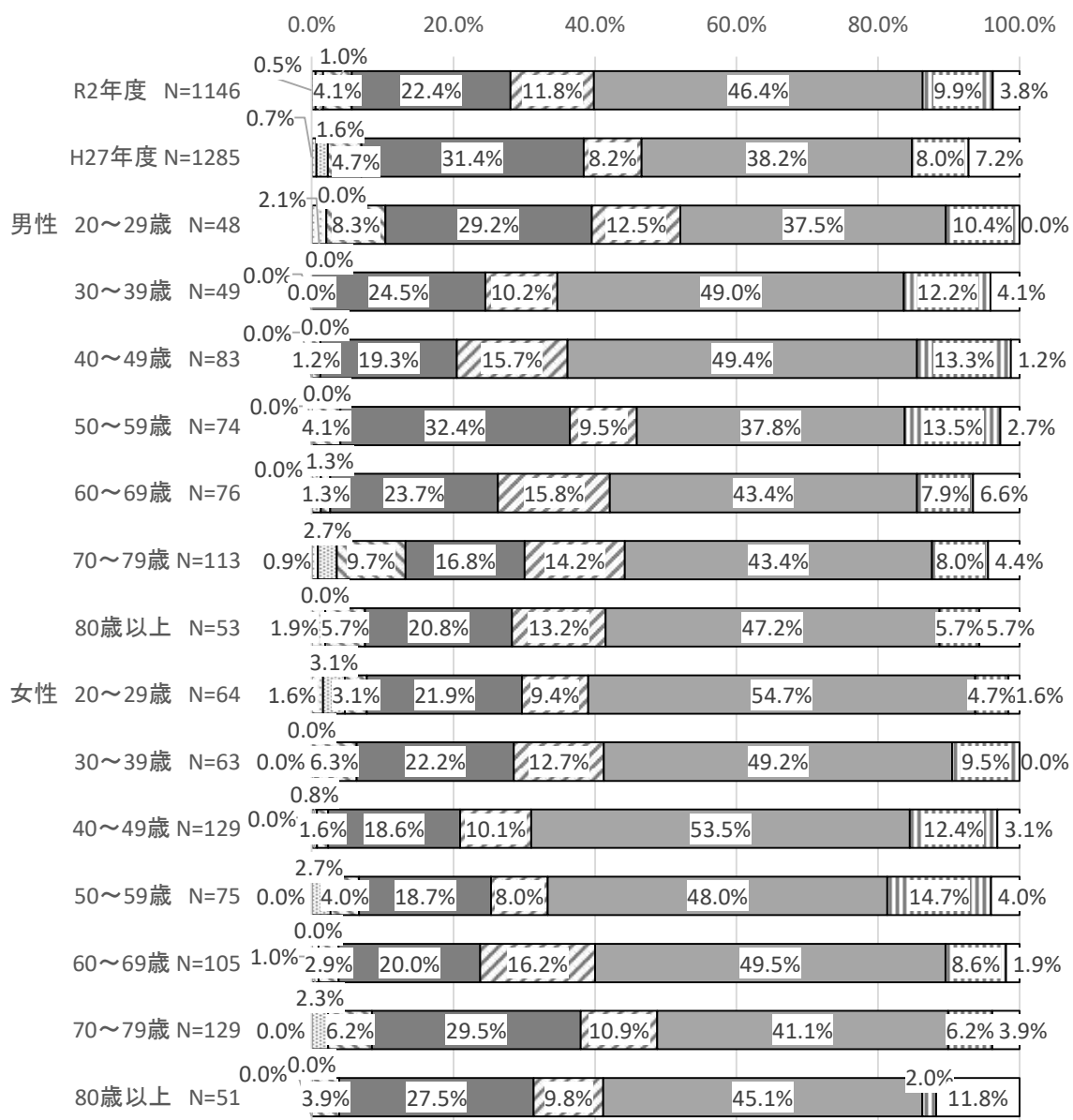


## (5) 女性活躍推進について

### ① 女性が職業（仕事）をもつことについて

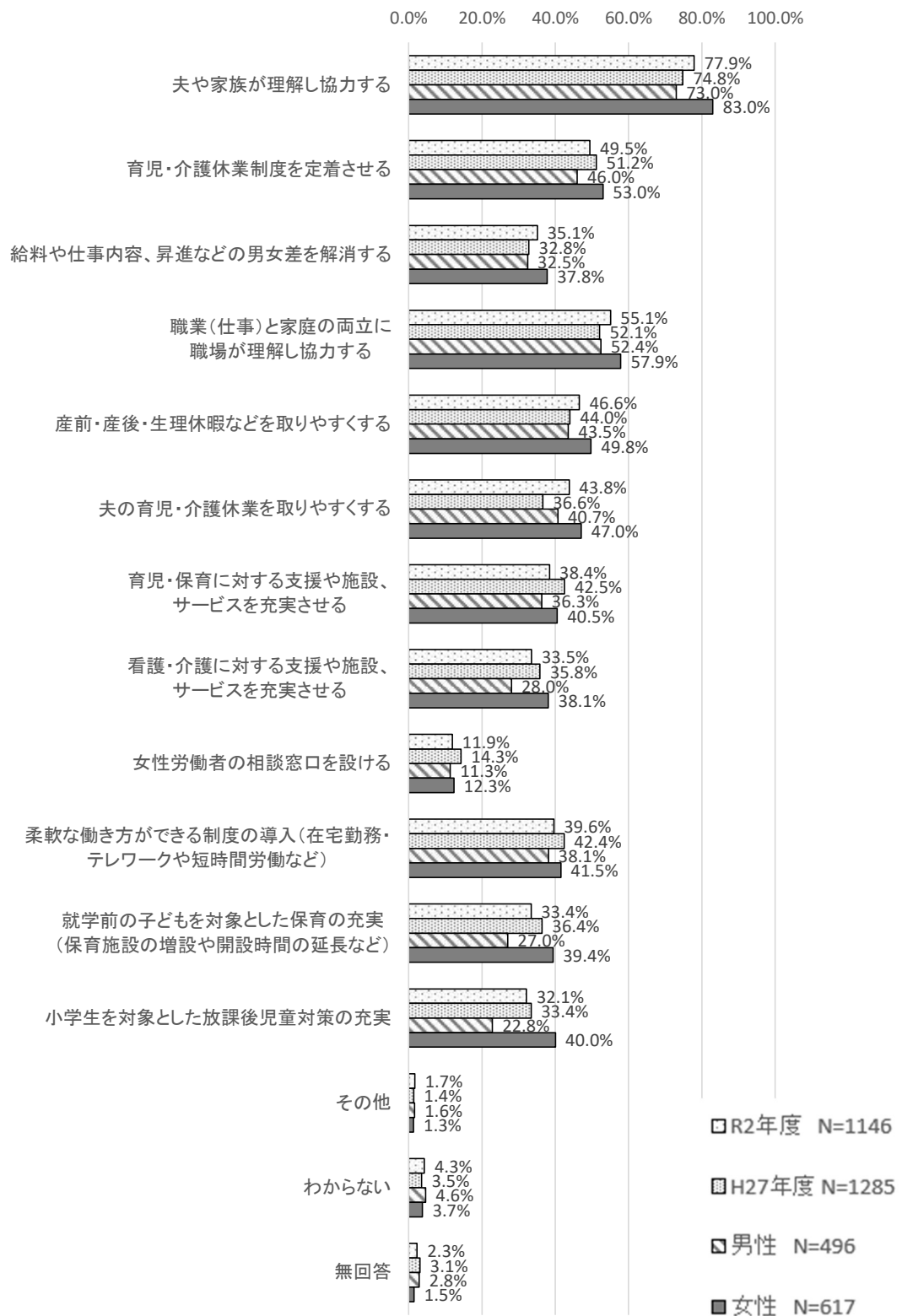
- ・女性が職業（仕事）をもつことについて、「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が46.4%と最も高く、次いで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が22.4%となっています。
- ・男女別年齢別にみると、男女ともにすべての年齢で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

- ☐ 女性は職業（仕事）をもたない方がよい  
☐ 子どもができたら、職業（仕事）をもたない方がよい  
☐ 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい  
☐ その他
- ☐ 結婚したら、職業（仕事）をもたない方がよい  
☐ 子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい  
☐ 結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい  
☐ 無回答



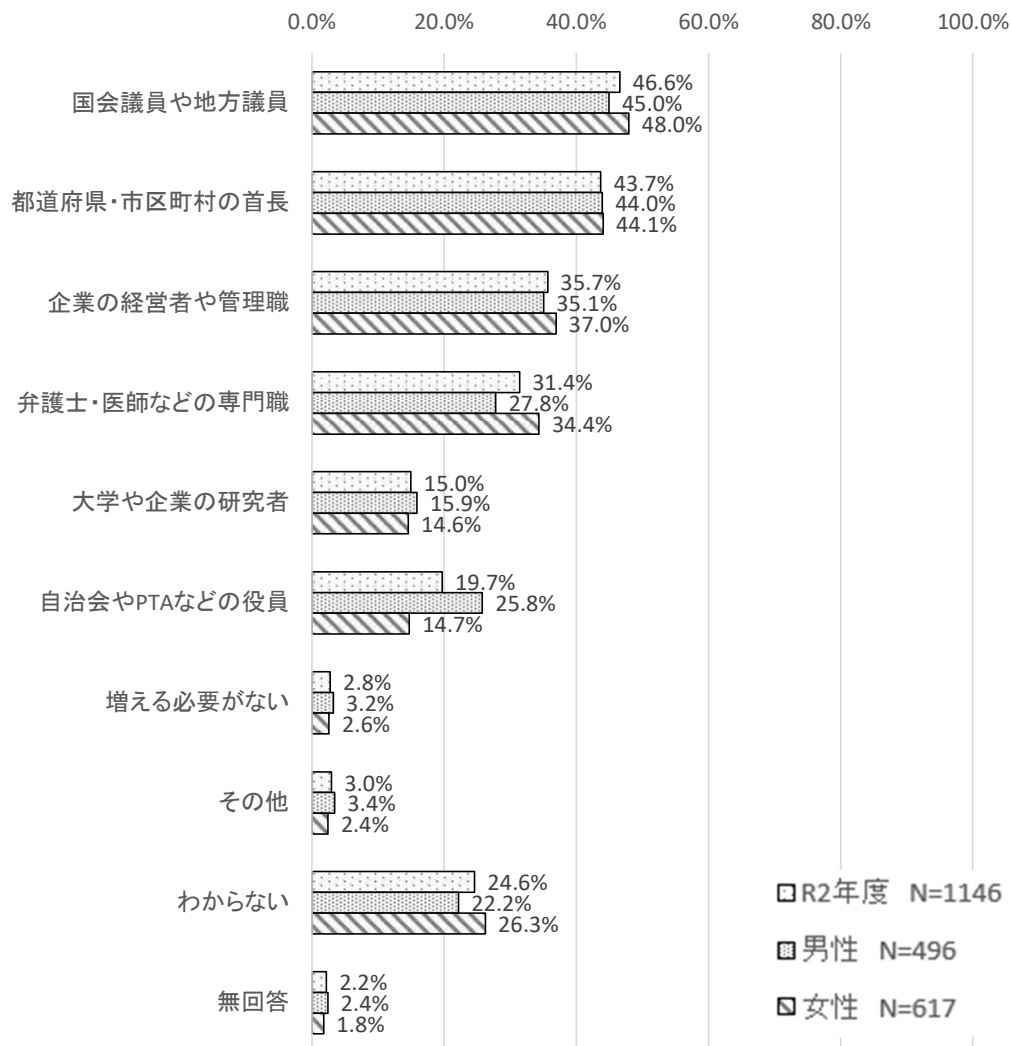
## ② 女性が安心して働き続ける環境をつくるために必要だと思うことについて

- ・女性が安心して働き続ける環境をつくるために必要だと思うことについて、「夫や家族が理解し協力する」の割合が77.9%と最も高く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が55.1%、「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が49.5%となっています。
- ・男女別にみると、全体的な回答の傾向に差はありませんが、「その他」と「わからない」を除くすべての項目で男性に比べ女性の回答割合が高くなっています。



### ③ 女性が増える方がよいと思う職業や役職について

- ・女性が増える方がよいと思う職業や役職について、「国会議員や地方議員」の割合が46.6%と最も高く、次いで「都道府県・市区町村の首長」の割合が43.7%、「企業の経営者や管理職」の割合が35.7%となっています。
- ・男女別にみると、男性に比べ女性で「弁護士・医師などの専門職」の割合が高くなっています。一方で、女性に比べ男性で「自治会やPTAなどの役員」の割合が高くなっています。



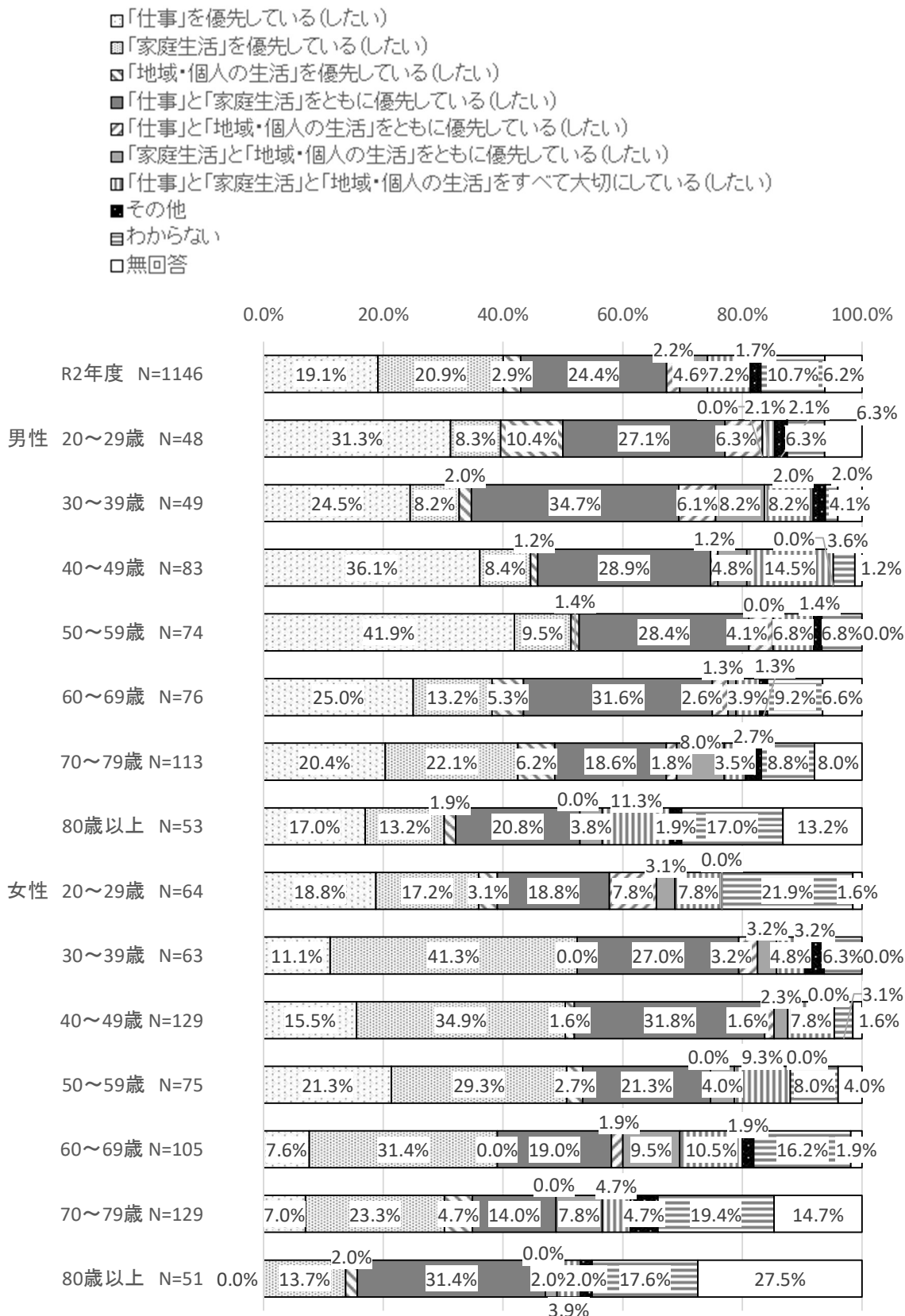
#### ④ 職場における職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあるかについて

- ・職場における職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあるかについて、「違いはない」の割合が23.8%と最も高く、次いで「違いがある」の割合が18.6%、「わからない」の割合が13.1%となっています。
- ・男女別年齢別にみると、男性の30～59歳で「違いがある」の割合が3割以上となっています。また、女性の20～59歳で「違いがある」の割合が2割以上となっています。



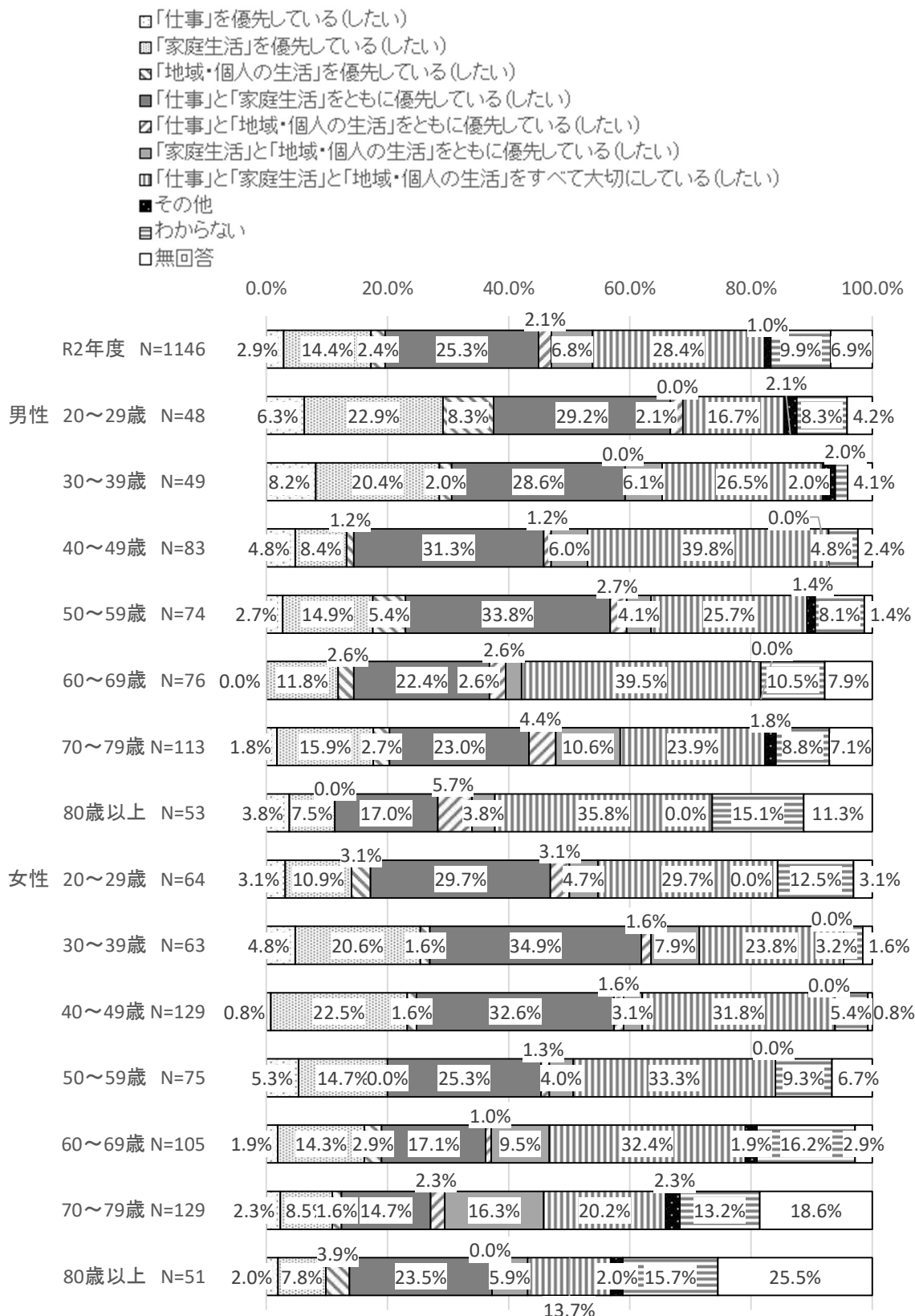
⑤ 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先するかについて【現実】

- ・生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先するかについて、現実では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が24.4%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している（したい）の割合が20.9%、「仕事」を優先している（したい）の割合が19.1%となっています。



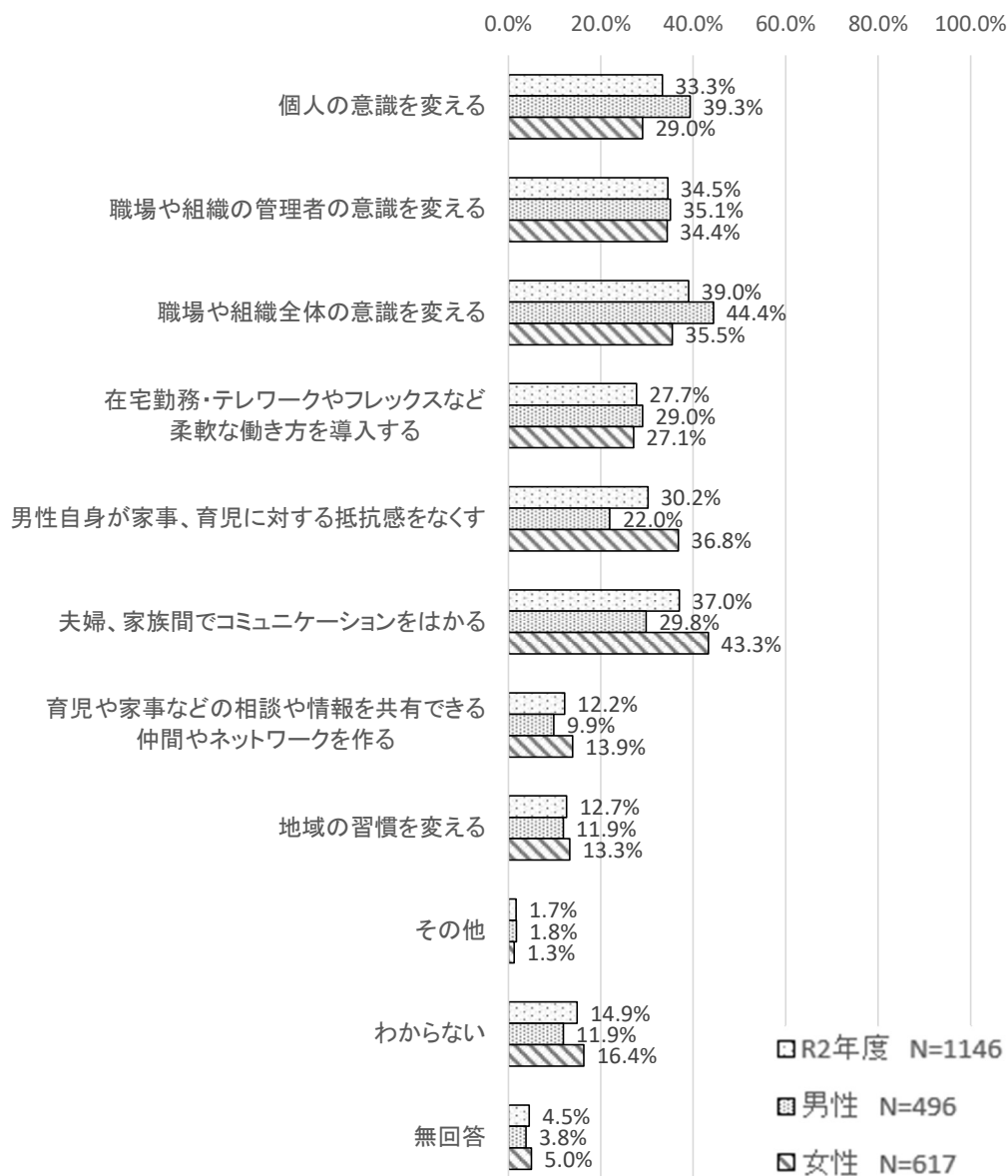
⑥ 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先するかについて【理想】

- ・生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先するかについて、理想では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている（したい）が28.4%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）が25.3%、「家庭生活」を優先している（したい）が14.4%となっています。



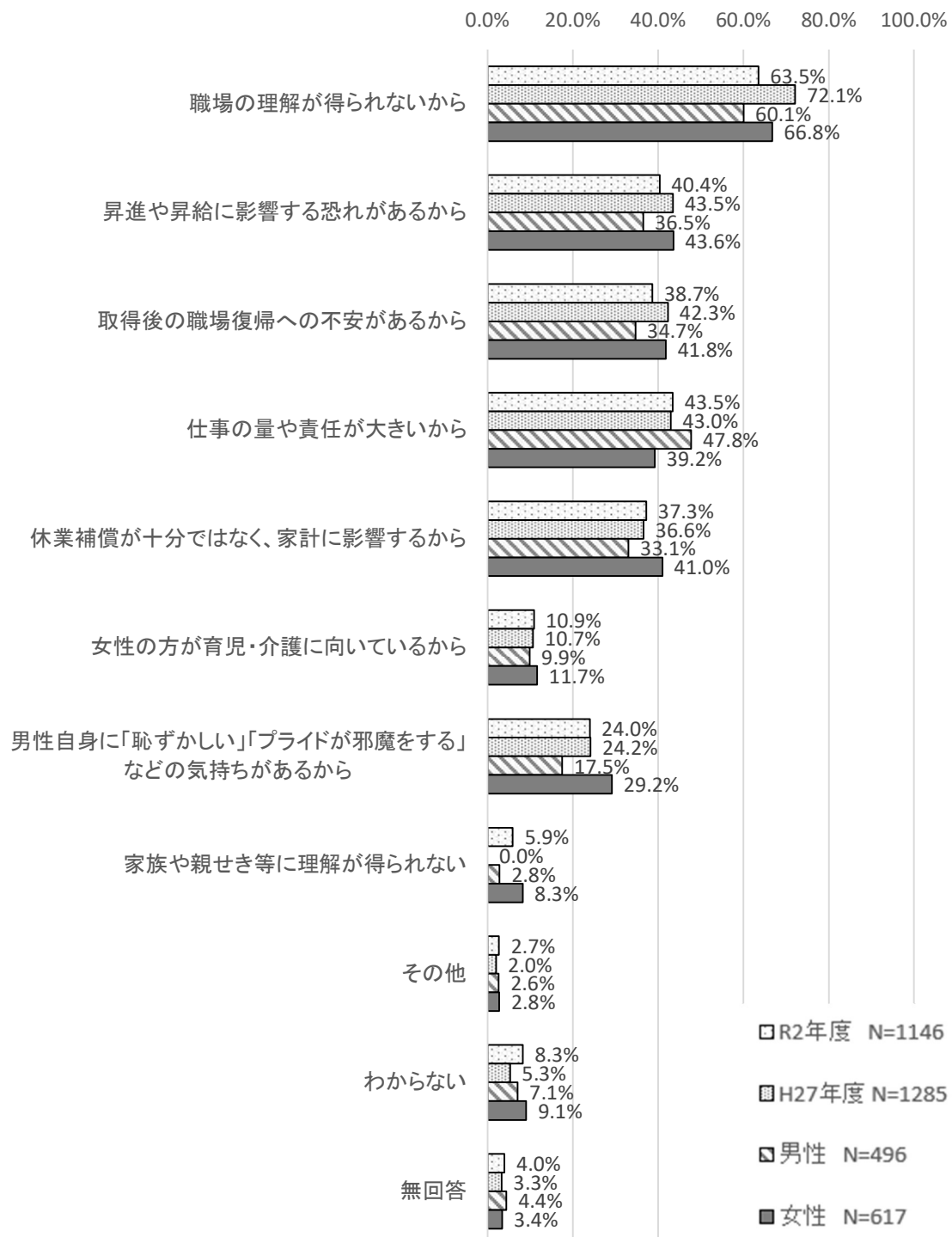
## ⑦ ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことについて

- ・ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことについて、「職場や組織全体の意識を変える」の割合が39.0%と最も高く、次いで「夫婦、家族間でコミュニケーションをはかる」の割合が37.0%、「職場や組織の管理者の意識を変える」の割合が34.5%となっています。
- ・男女別にみると、女性に比べて男性で「個人の意識を変える」「職場や組織全体の意識を変える」の割合が高くなっています。一方、男性に比べて女性で「男性自身が家事、育児に対する抵抗感をなくす」「夫婦、家族間でコミュニケーションをはかる」の割合が高くなっています。



## ⑧ 育児や介護で休みを取る男性が少ない理由について

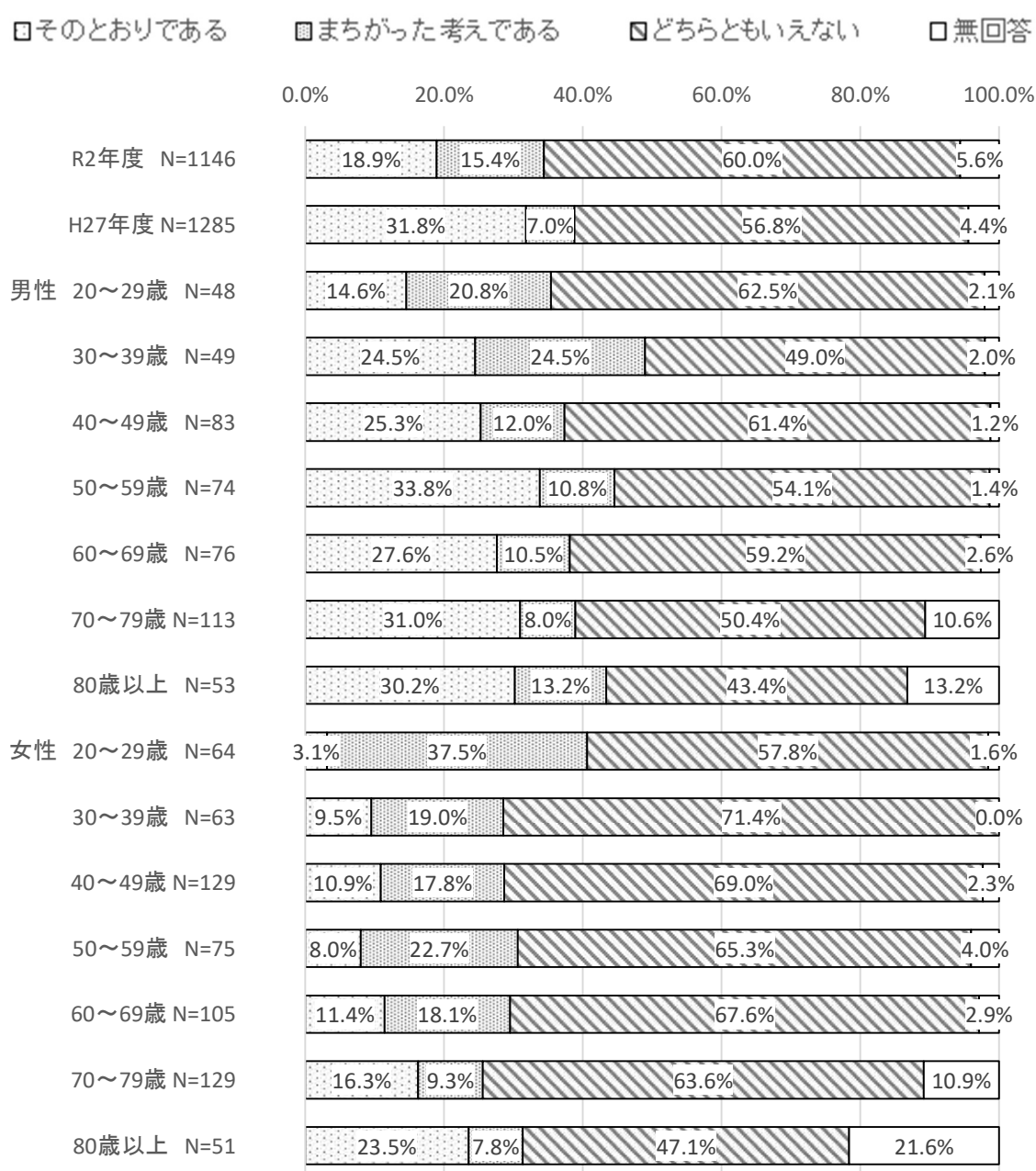
- ・育児や介護で休みを取る男性が少ない理由について、「職場の理解が得られないから」の割合が63.5%と最も高く、次いで「仕事の量や責任が大きいから」の割合が43.5%、「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が40.4%となっています。
- ・男女別にみると、女性に比べて男性で「仕事の量や責任が大きいから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べて女性で「職場の理解が得られないから」「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」「取得後の職場復帰への不安があるから」「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」「家族や親せき等に理解が得られない」の割合が高くなっています。



## (6) 子育て・子どもの教育について

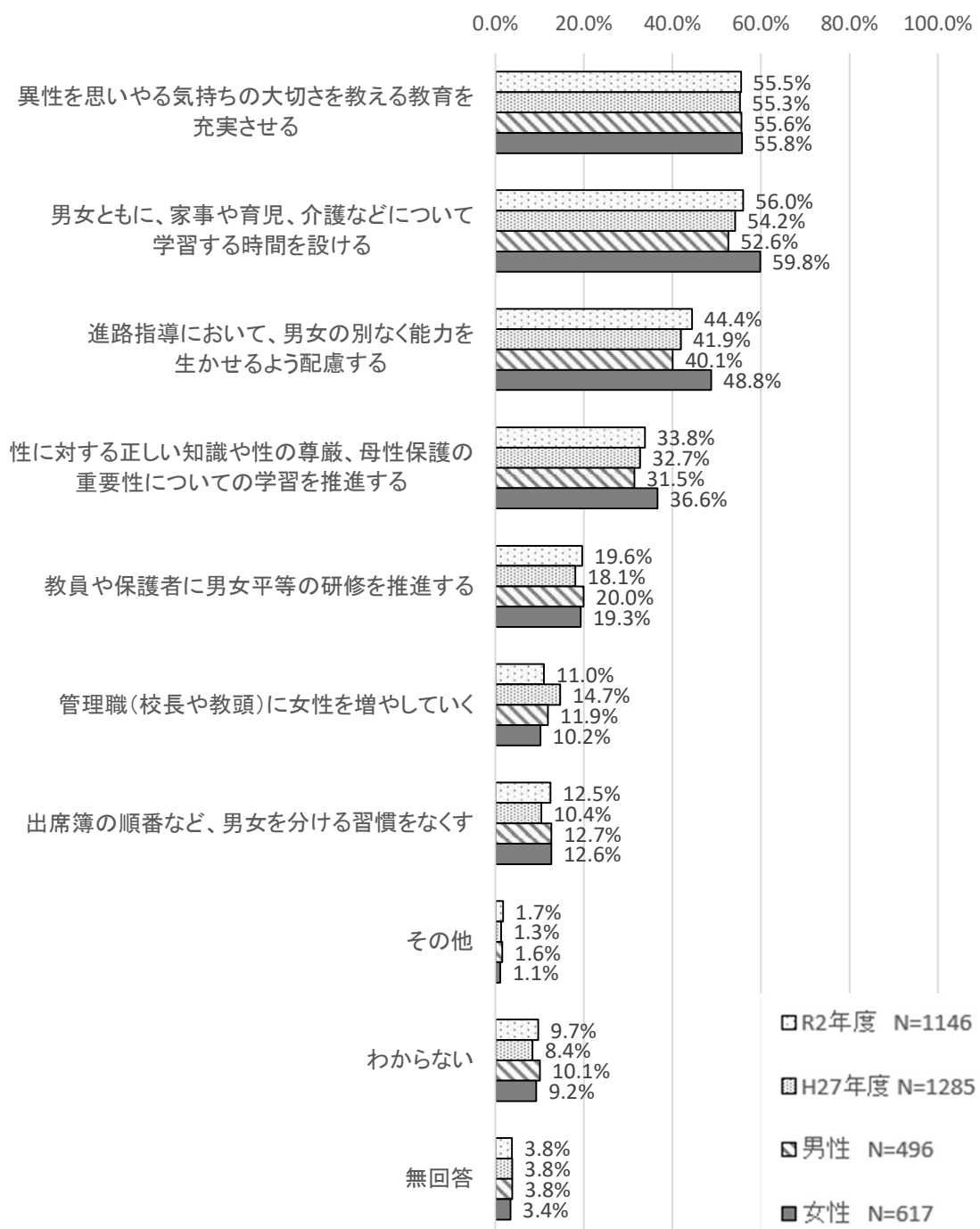
### ① 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という子どもの育て方について

- ・「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という子どもの育て方について、「どちらともいえない」の割合が60.0%と最も高く、次いで「そのとおりである」の割合が18.9%となっています。
- ・男女別年齢別にみると、女性の20～29歳で「まちがった考えである」の割合が高くなっています。一方、男性の50～59歳と70～79歳と80歳以上で「そのとおりである」の割合が3割以上となっています。



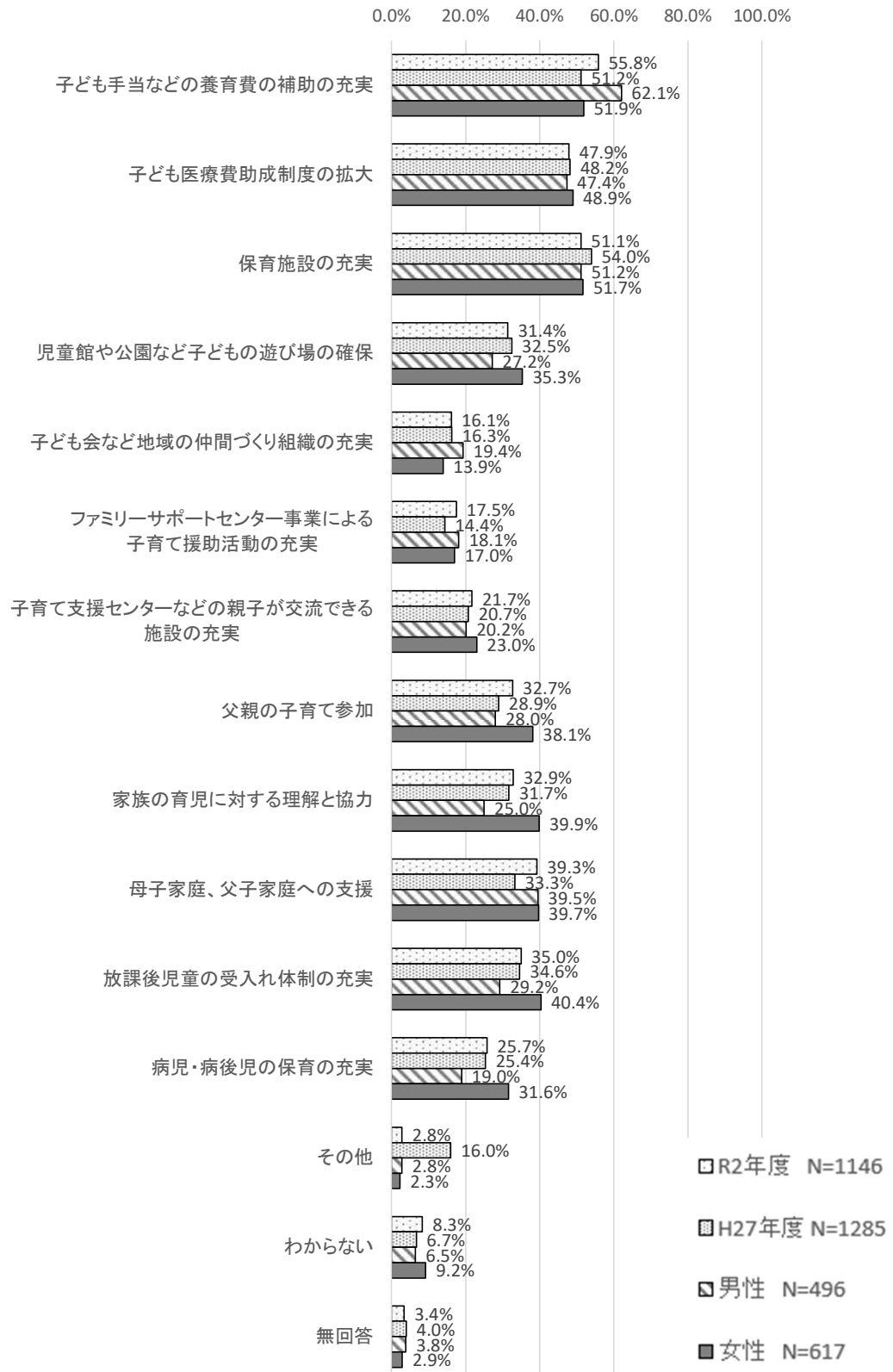
## ② 学校教育で力を入れるべきことについて

- ・男女平等の意識を育てるために、学校教育で力を入れるべきことについて、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が 55.5%、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が 44.4%となっています。
- ・男女別にみると、男性に比べ女性で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が高くなっています。



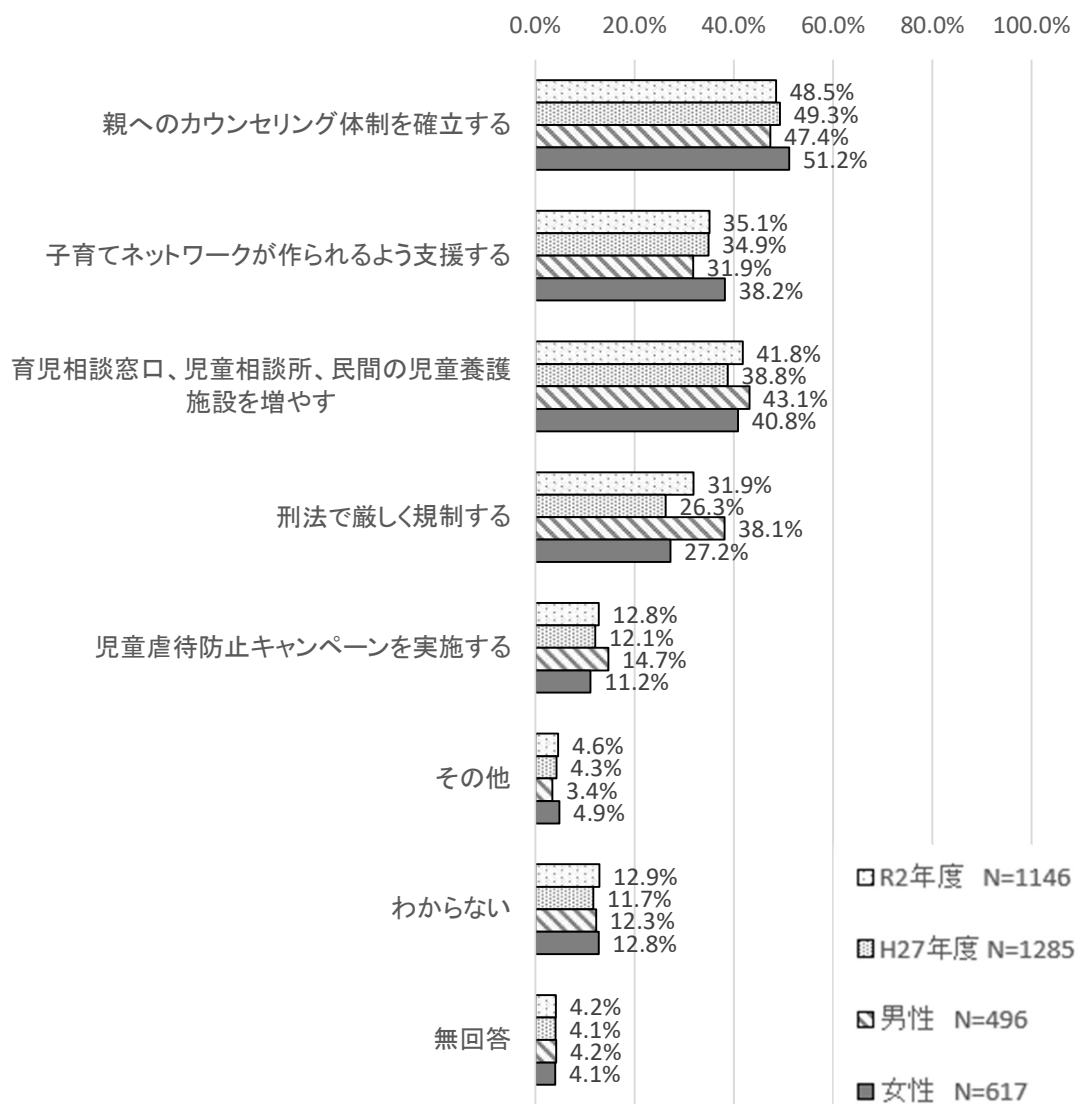
### ③ 安心して子どもを生み育てるために必要なことについて

- ・安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、「子ども手当などの養育費の補助の充実」が55.8%と最も高く、次いで「保育施設の充実」が51.1%、「子ども医療費助成制度の拡大」が47.9%となっています。
- ・男女別にみると、男性に比べ女性で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「家族の育児に対する理解と協力」「放課後児童の受入れ体制の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。



#### ④ 子どもへの虐待を起こさないために必要なことについて

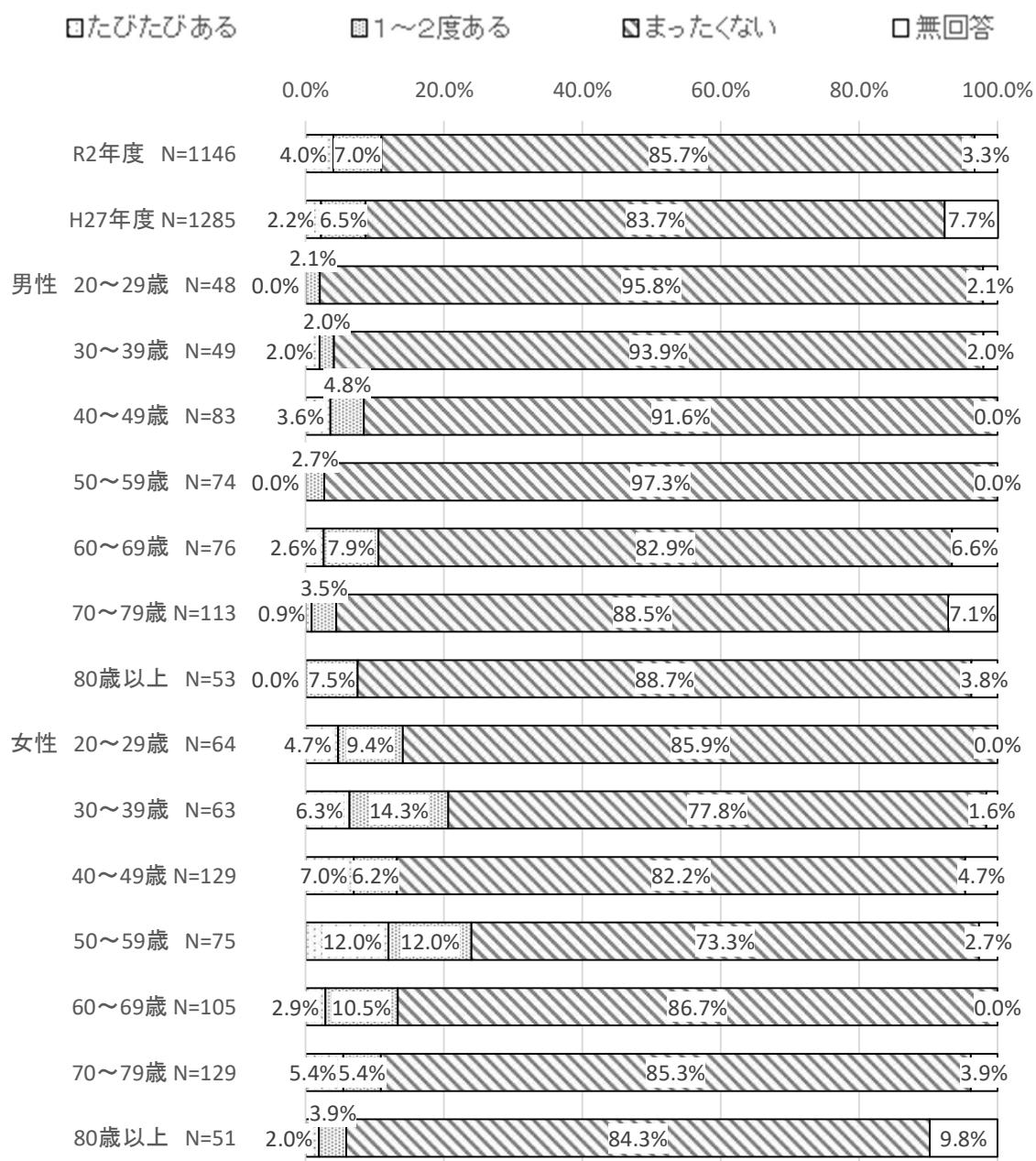
- 子どもへの虐待を起こさないために必要なことについて、「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が48.5%と最も高く、次いで「育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす」の割合が41.8%、「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が35.1%となっています。
- 男女別にみると、男性に比べ女性で「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。



## (7) 配偶者等からの暴力について

### ① DVを受けたことがあるかについて

- ・DVを受けたことがあるかについて「たびたびある」と「1～2度ある」をあわせた“ある”の割合が11.0%となっています。
- ・男女別年齢別にみると、女性の30～39歳、50～59歳で“ある”の割合が高くなっています。



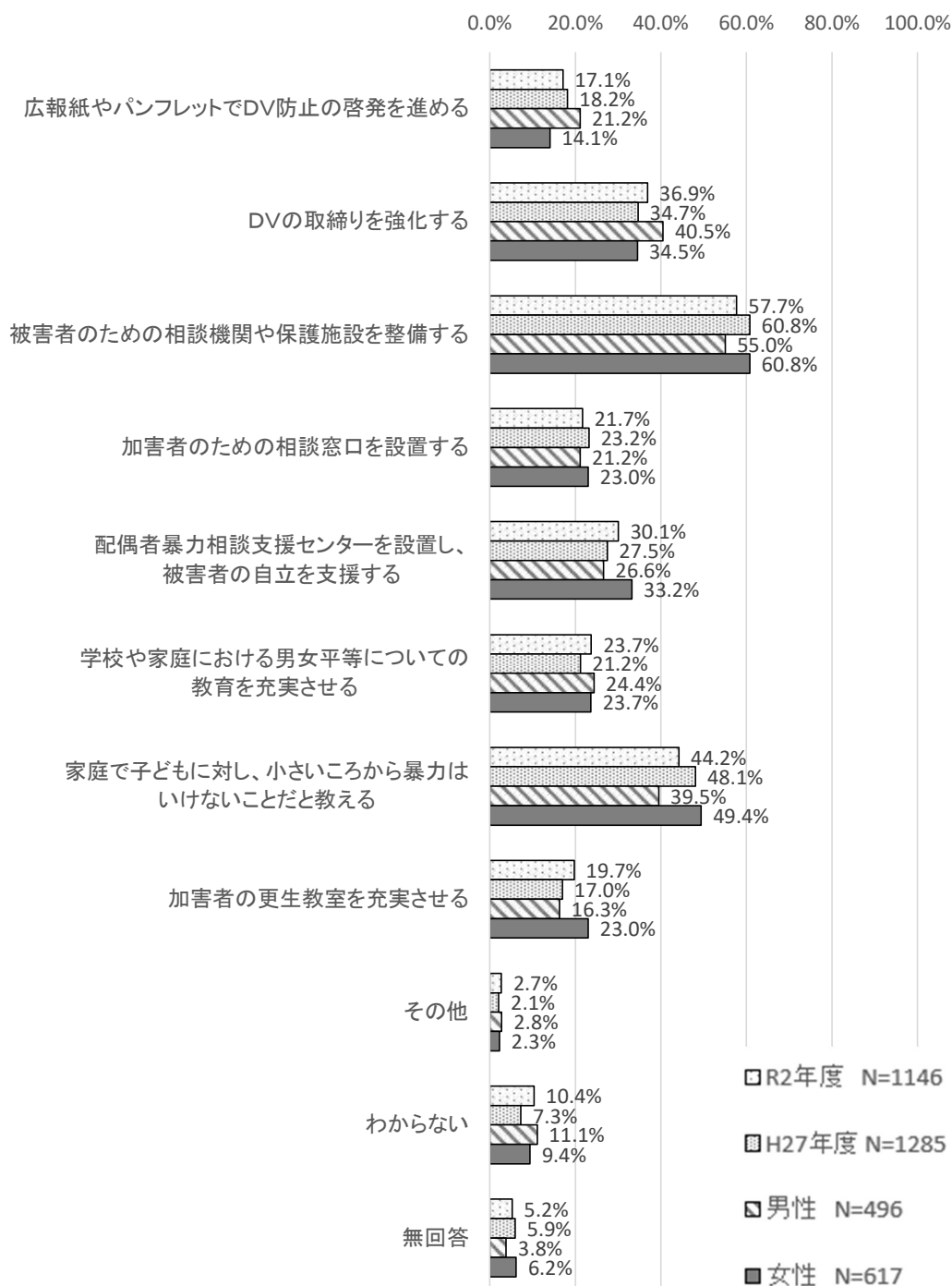
## ② DVを受けたことを誰かに打ち明けたかについて

- ・DVを受けたことが“ある”と回答した方に、DVを受けたことを誰かに打ち明けたかを尋ねると、「相談しようと思わなかった」の割合が39.7%と最も高く、次いで「相談した」の割合が27.8%、「相談できなかった」の割合が17.5%となっています。
- ・男女別にみると、女性に比べ男性で「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「相談した」「相談できなかった」の割合が高くなっています。



### ③ DVを防止するために必要だと思うことについて

- ・DVを防止するために必要だと思うことについて、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が57.7%と最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」が44.2%、「DVの取締りを強化する」が36.9%となっています。
- ・男女別にみると、女性に比べ男性で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べて女性で「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。





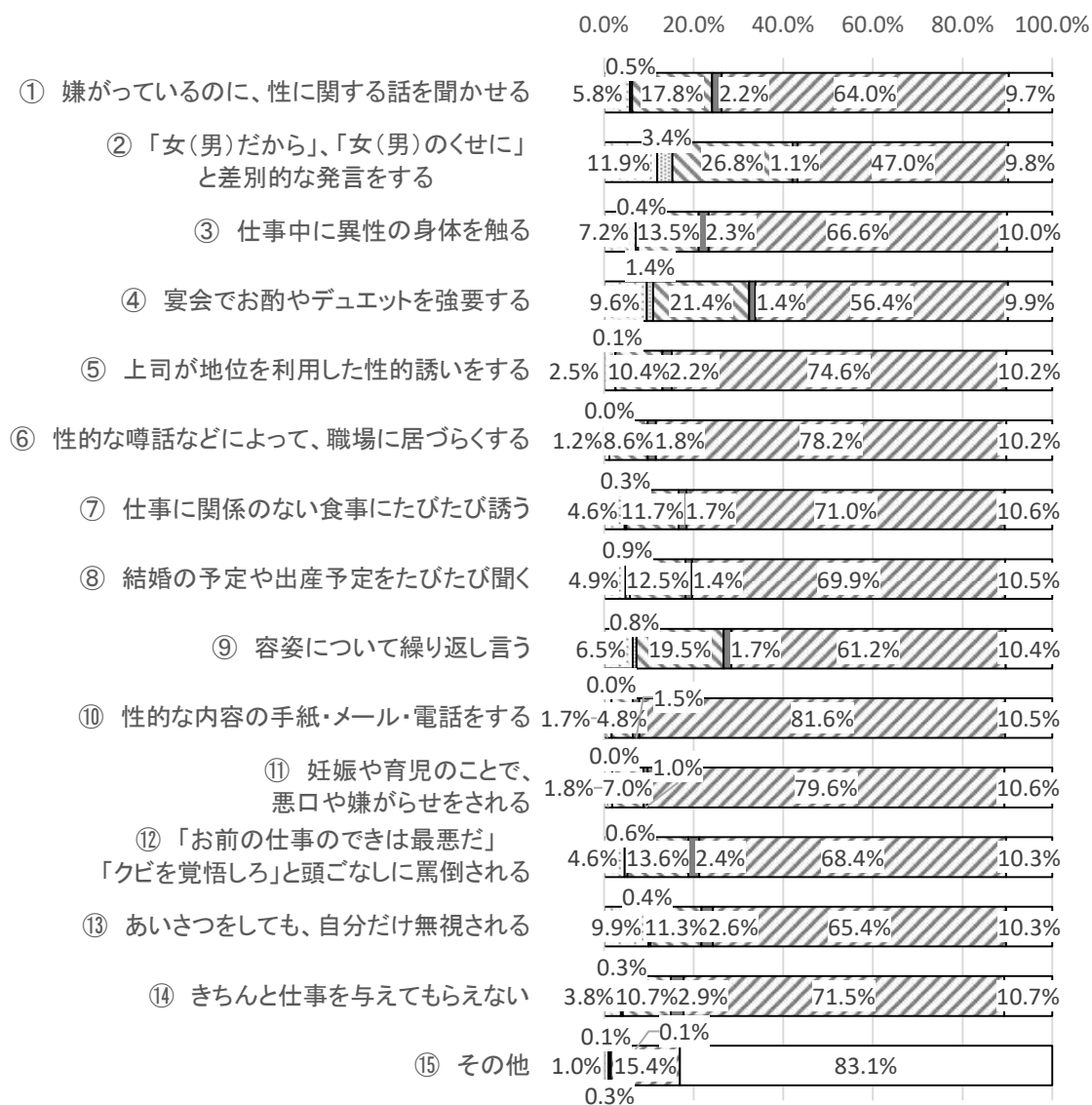
## (8) セクシュアル・ハラスメントについて

### ① セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがあるかについて

- ・セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがあるかについて、「受けたことがある」で「②「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」の割合が1割を超えています。  
「見聞きしたことがある」で「②「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」「④宴会でお酌やデュエットを強要する」の割合が2割を超えています。

☐ 受けたことがある      ☐ したことがある      ☐ 見聞きしたことがある  
☐ 相談を受けたことがある      ☐ 周りにはいないと思う      ☐ 無回答

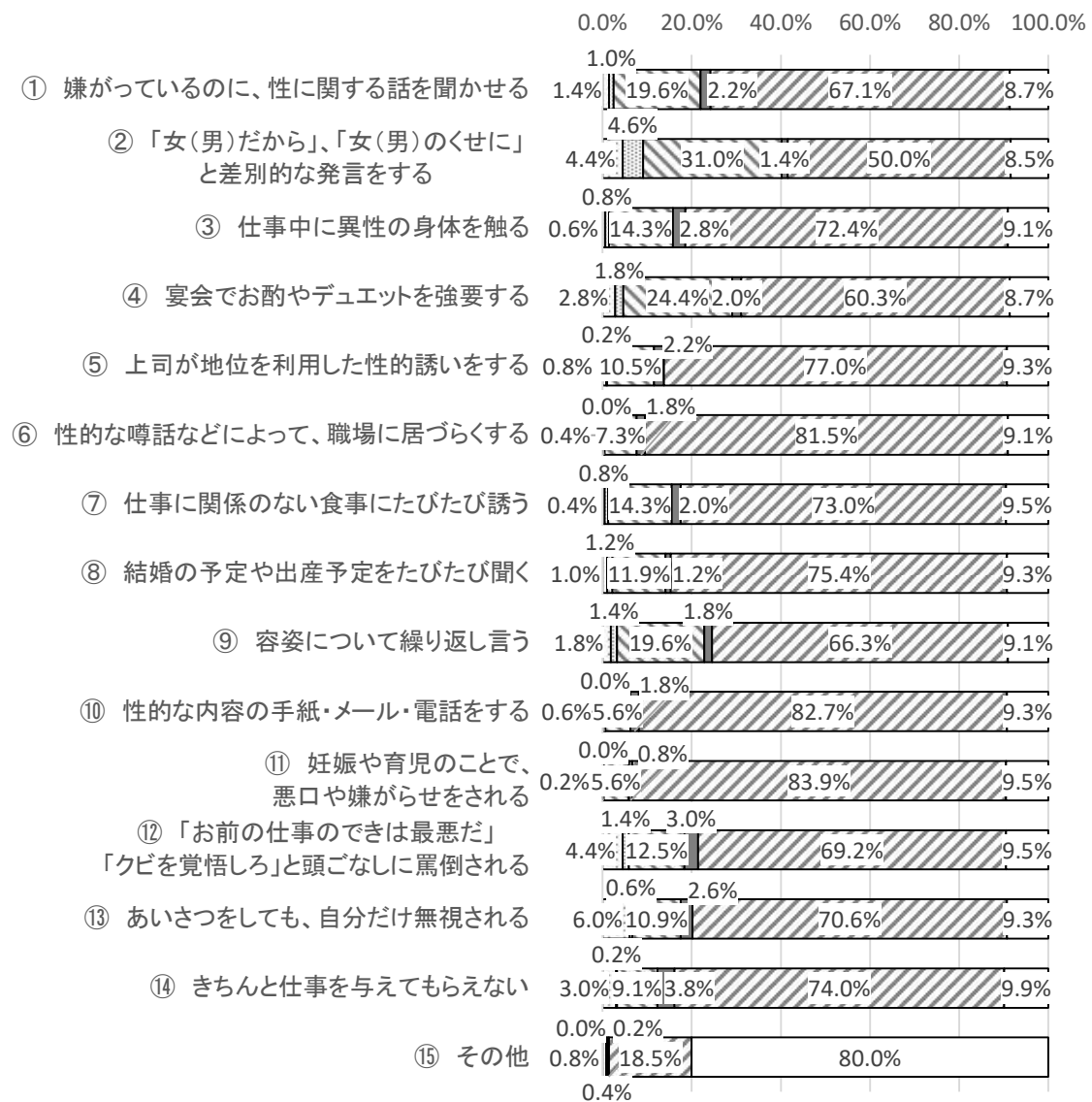
R2年度: N=1146



- ・男女別にみると、女性では②「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする、③仕事中に異性の身体を触る、④宴会でお酌やデュエットを強要する、⑨容姿について繰り返し言う、⑬あいさつをしても、自分だけ無視されるについて「受けたことがある」の割合が1割を超えています。

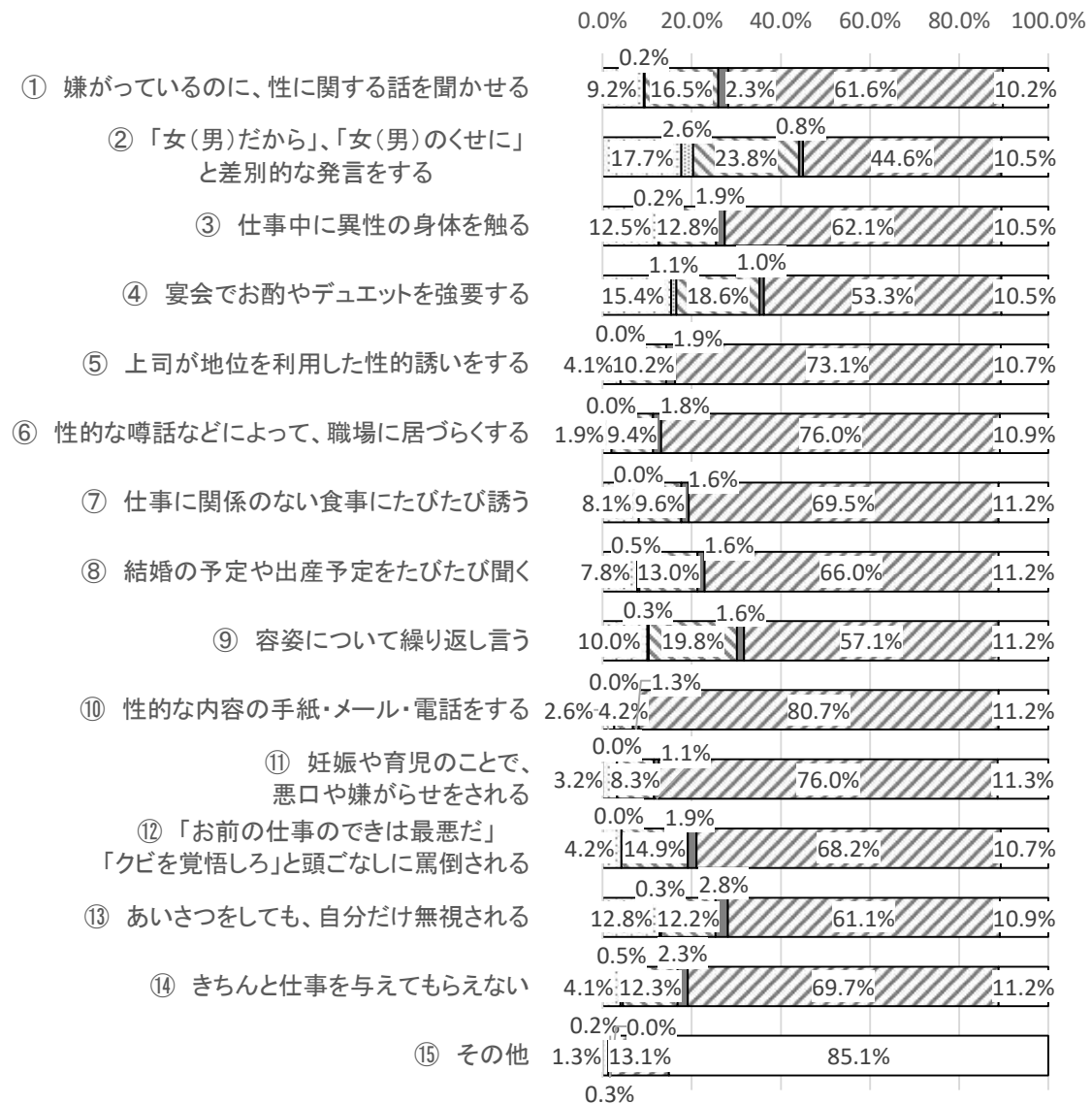
☐ 受けたことがある      ☐ したことがある      ☐ 見聞きしたことがある  
☐ 相談を受けたことがある      ☐ 周りにはいないと思う      ☐ 無回答

男性：N=496



☐ 受けたことがある      ☒ したことがある      ☒ 見聞きしたことがある  
☒ 相談を受けたことがある      ☒ 周りにはいないと思う      ☐ 無回答

女性：N=617

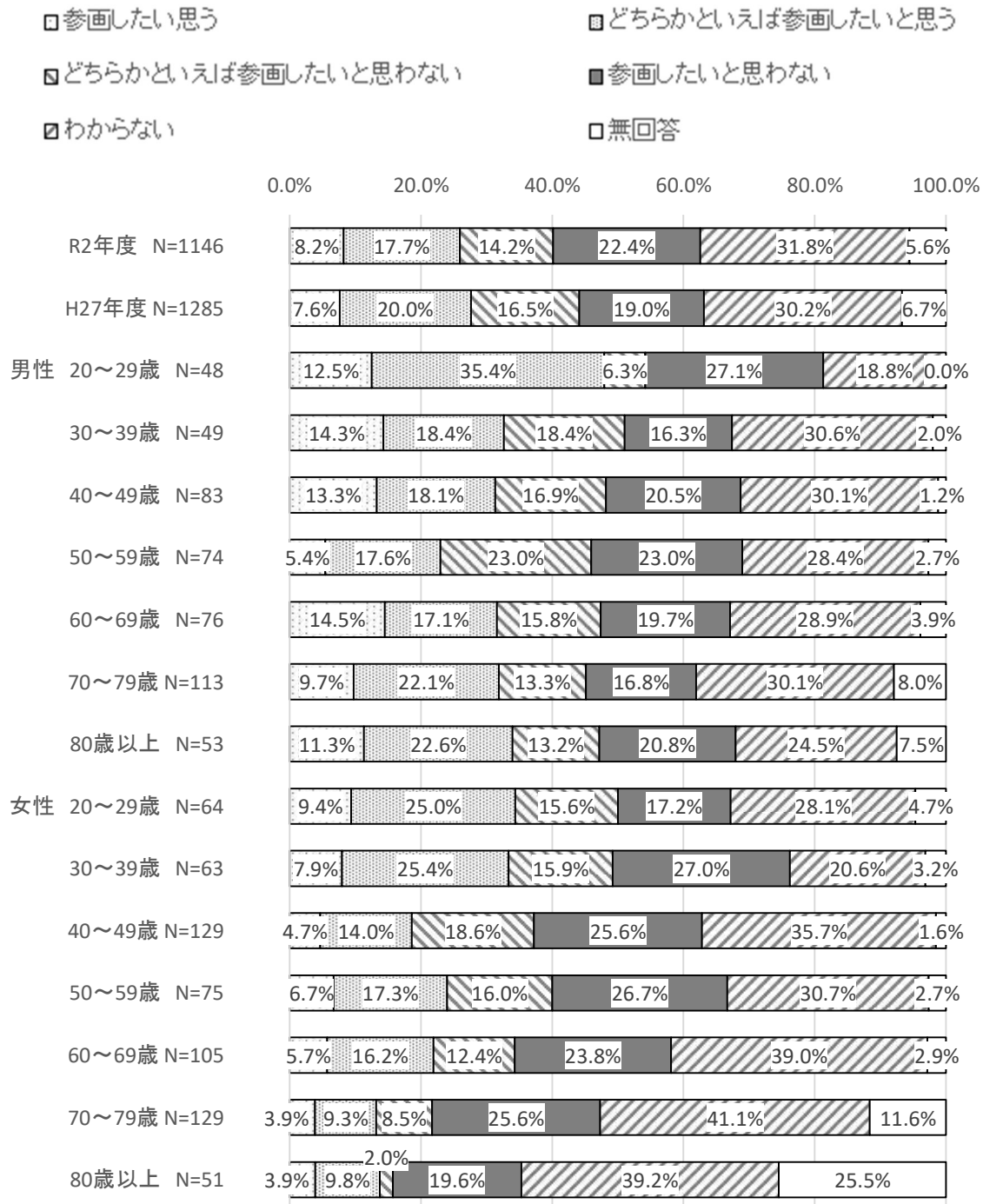




## (9) 男女共同参画について

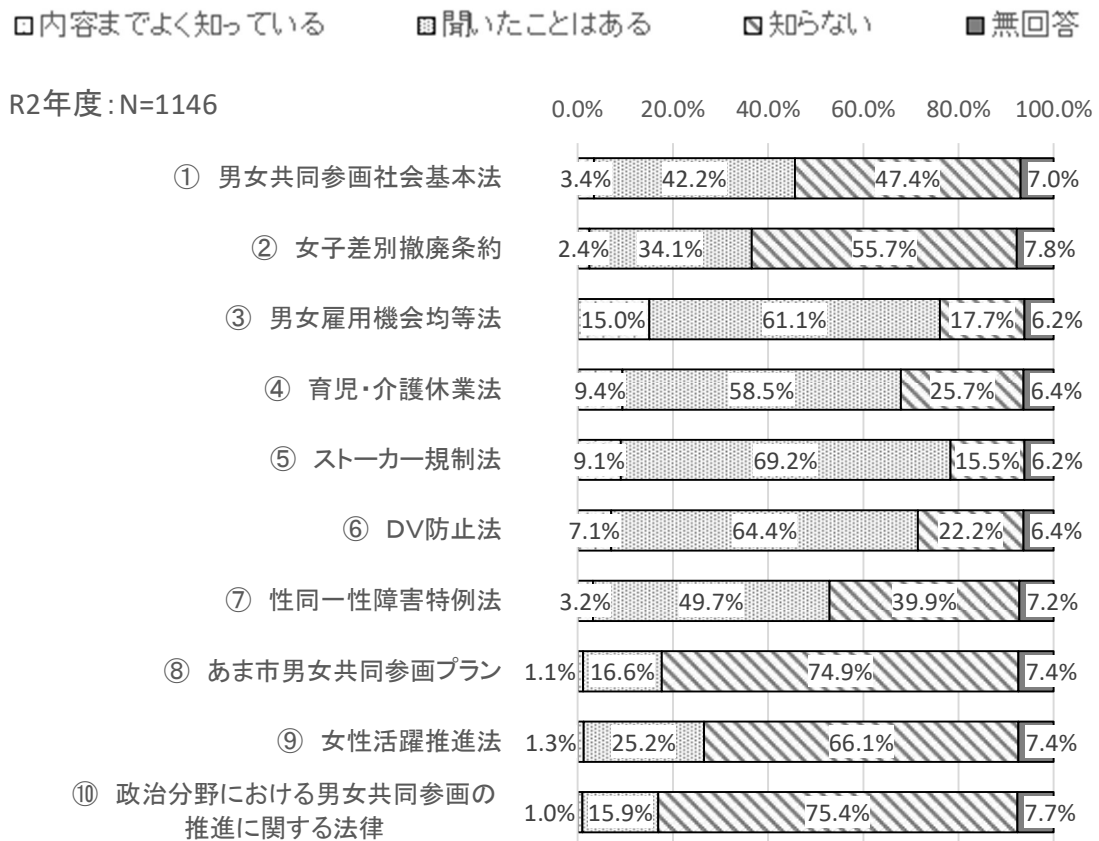
### ① 地域・職場などにおいて、方針決定の場へ参画したいと思うかについて

- ・地域・職場などにおいて、方針決定の場へ参画したいと思うかについて、「わからない」の割合が31.8%と最も高く、次いで「参画したいと思わない」の割合が22.4%、「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が17.7%となっています。
- ・男女別年齢別にみると、男性の20～29歳で「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。



## ② 法律や制度等の認知度について

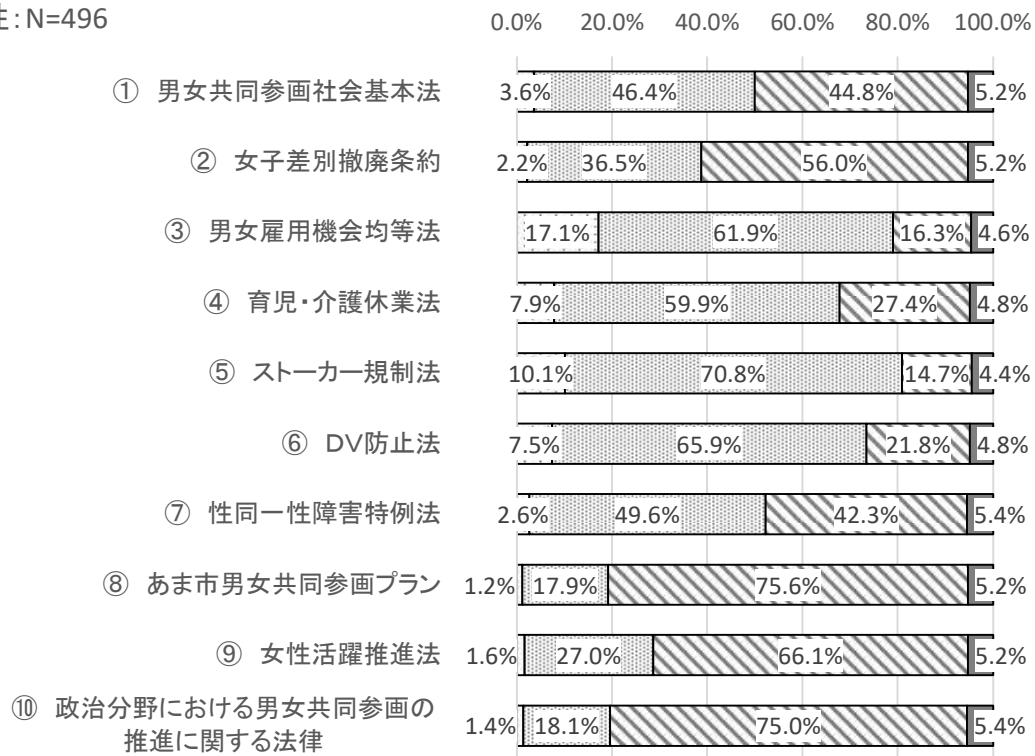
- ・ 法律や制度等の認知度について、「知らない」の割合が、②女子差別撤廃条約で 55.7%、⑧あま市男女共同参画プランで 74.9%、⑨女性活躍推進法で 66.1%、⑩政治分野における男女共同参画の推進に関する法律で 75.4%となっています。



- ・男女別にみると、男女ともに③男女雇用機会均等法で「内容までよく知っている」の割合が最も高くなっています。一方、「知らない」の割合が最も高いのは、男性では⑧あま市男女共同参画プラン、女性では⑩政治分野における男女共同参画の推進に関する法律となっています。

□内容までよく知っている    ▨聞いたことはある    ▨知らない    ■無回答

男性：N=496



女性：N=617

